

授業科目	刑法演習
演習題目	刑法の諸問題
担当教員	野澤 充
授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 刑法学に関する理解を深めること 2 刑法学における「事例問題」に対してきちんと解答できるだけのスキルを身につけること
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 刑法Ⅰ（刑法総論）および刑法Ⅱ（刑法各論）を履修済みであること 2 毎回出席できること <p>【注意事項】</p> <p>※ゼミの進行の都合という観点から、ゼミ受け入れ人数を制度上の最大人数（16人）よりも大幅に少ない人数で締め切ることがあります。その際にはとくに志望理由書に記述された進路上の希望内容（および継続履修希望の4年生に関してはゼミに対する取り組み状況も）を重視します。</p>
教科書・参考書	適宜指定する。詳しくは第1回目のゼミで説明する。
授業の計画・内容	<p>具体的には第1回目のゼミで参加者と相談して決める予定であるが、以下のような内容を考えている。</p> <p>〔前期〕「問題演習」と「報告」を行う。「報告」については、担当教員が無作為に班分けした2～5人ごとのグループに分かれて、各グループが選んだテーマについて報告。報告テーマの題材は、『刑法判例百選Ⅰ総論〔第8版〕』（有斐閣、2020年）または『刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕』（有斐閣、2020年）もしくは松宮孝明『プチゼミ刑法総論』（法学書院、2006年）、または担当教員が配布する「演習問題集」の中から選んで頂く。「問題演習」は、刑法に関する問題を担当教員が出題し、各人が答案構成（文章にする必要はない。「解答の骨子」、すなわち解答の項目立てのみで構わない）をしてくる。その各人の解答の骨子をもとにしてやりとりしつつ、刑法上の問題について全員で検討していく。前期の「問題演習」は、刑法各論の問題を中心に扱う予定である。</p> <p>〔後期〕前期と同様に「問題演習」と「報告」を行う。進め方もほぼ同様。「報告」に関しては、担当教員が配布する「演習問題集」も報告の題材に含めることになる。また後期の「問題演習」は、刑法総論の問題を中心に扱う予定である。</p>
成績評価の方法	<p>概ね以下の基準で評価する。</p> <p>出席：40%</p> <p>報告：20%</p> <p>問題演習における内容評価：40%</p> <p>その他、質疑などで優れたものがあれば、加点的に評価することもある。また、著しい素行不良等があれば、減点的な評価もあり得る。</p>